

第4回総合計画策定審議会（4/5 開催） 質疑応答 全文

【質疑】

Q 委員

1点目が、48ページ、49ページの土地利用構想のところ、青色の部分が「港ふれあい・物流拠点ゾーン」になっていて、右側を見ると「港ふれあい・観光物流拠点ゾーン」ということで「観光」が入っているかいらないか。そこがまず一点ですね。もう一点については探します。

A 事務局

今、ご指摘ありました、48ページ、49ページに「港ふれあい・物流拠点ゾーン」、この部分ですが、今現在申し訳ございません。49ページの方ですね、所管との擦り合わせ最中でして、修正漏れの部分でした。名称としては48ページにある「港ふれあい・物流拠点ゾーン」として今のところ整理していきたいと思えます。

Q 委員

それともう一点、14ページですね。14ページの就労者数が、ちょっと分からないですけど、6,281人と書いてあるんですが、1次産業、2次産業、3次産業を足すと、この数字にはならない気がするの、他に謎の人がいるのか、こういう計算なのか、こういう計算であればいいんですけども。

A 事務局

申し訳ございません。今現在あるデータでいくとですね、ちょっと今回答しかねる部分ですので、戻って再度精査して、確認次第修正したいと思います。

Q 委員

特にこういうことであれば問題ないと思えます。

所感としてはですね、第1次産業、農業、林業、漁業の方々が残り217人しかいないんだなと思うと非常に危機的状況だし、海の町、漁業の町と言われ続けて、観光のお客さんも海の町だろう、魚もおいしいだろう、というイメージで来ているのにも関わらず、なかなか危機的だなというところですね。

尚且つ、SDGsを目指すのであれば、魚とか海の資源を大切にしようというところなので、なかなか危機的だなと所感がありました。

Q 委員

PDCA サイクルを行って一番大切なのが、評価の部分が一番大切だと思うんです。大体、計画も作りました、実行もしました、評価をするのに数字、どんな仕事の関係でも一番難しいんですけども。それであるとする、それぞれの基本計画に入っている KPI の項目が少ないのかなと。もっと細かく数値をしていかないと評価が出来ない。自己中心的な評価になりやすい。その辺はどうなのかなと。もう少し色々な面からして、KPI を増やしたら良いじゃないかなと思うんです。

A 事務局

今、ご意見いただきました KPI の評価の部分のご指摘につきまして、事務局といたしまして、目標ごとの基本施策の個数に応じて、KPI を設定させて頂きたいと思っています。例えば 55 ページの目標 1 の部分でいくと基本施策は 1-1 から 1-4 まで 4 つございますので、その 4 つの KPI を今のところ設定しようと、この総合振興計画においては、設定していこうと考えております。

ただ、その下にですね、施策項目の部分で所管の個別の部分に関わってくることになりまますので、そこの見直しについては、今後、各所管と密に連携をとりながら設定するのかしないのかも含めて、協議したいと思っております。

Q 委員

となれば、例えば今の 55 ページの 1-1 から 1-4 まで 4 つの KPI、59 ページの 2-1 から 2-3 があって 3 つの KPI があってということ。

A 事務局

仰るとおりです。基本施策の個数に応じてということで、ここの、どんな項目をこの KPI に設定するかを、個数も含めて今後精査していきたいと思えます。

ありがとうございます。

Q 委員

今回の資料を見せていただいて、非常に見やすいというか、アイコンや色分けを使って非常に見やすい資料になってるなと思いました。

今回、資料を仕上げ段階にもっていくにあたって、10 年後の将来展望、国、北海道、岩内町というのが追加されているんですけども、ここの全体の所を考えた時にですね、正直、人口減少、高齢化、その他の問題に関しては、国全体の事も含めて考えると、若干遅きに失した感があるというか、本来であれば我々 40 代第二次ベビーブーマーという人達が、沢山子どもをつくって、子ども達を育てやすい環境を作るべきだったという部分があると思うんですけど、そこを踏まえた上で、第三次ベビーブーム、もう日本には二度とはもう訪れないという部分を踏まえた上で、人口減少、高齢化、まちづくりの部分を今後具体的な政策で、どういう風に出てくるのかっていうところに興味があります。

全体資料を通して見た中で、基本、どうしても計画、基本理念とか、概論の部分がメイン

になってきますので、個別の具体的に政策っていうのは、今後、岩内町さんに預けるしかないのかなというところがちょっと痒いところでもあるんですけども、もしも、今後所管に具体的な政策を作ってもらう段階で、要望としてちょっとこの部分考えて欲しいというところを伝えるとすればですね、人口減少とか高齢化はストップはかけられない状況の中で、増やすとか維持するとか以外の新しい何かを考えられないものかという部分と、土地利用のところではゾーン分けして、すごく今後の展望として分かりやすいんですけども、その新しく何か、新しく、素敵な物で塗り替えていくというのも、もちろん大事ですけども、それ以外にネガティブな部分で依然残っている部分、空き地だったり、町中を車でスーッと通った時に感じる寂れ感だとか、そういったところはそのまま放置していて良いのかなと、そこをもうちょっと掘り下げて欲しいなという気持ちは常々感じております。

A 事務局

委員ありがとうございました。委員の仰るとおり、今回のこの総合振興計画におきましては、委員が仰るとおり理念ですとか、町の方向性の概念的な部分、そこを示す大事な計画ではあるんですが、より個別、具体の中身になりますと冒頭3ページにも記載しているんですが、各セッションにおいて個別の計画を策定しているという部分があります。特に委員が指摘していただきました、子育ての部分につきましては岩内町子ども子育て支援事業計画ですとか、その他の計画の中で進められていると考えております。

その中でも、目標別基本計画におきましてはしっかりとですね、55ページになるんですが、安心して子どもを産み育てられる環境の充実ですとか、子どもの生きる力、子どもを産む部分と育てる部分、さらには小中高の教育の部分、こちらを一通り連携して、子育ての施策が見える様な形で計画を作っているところでありますので、そちらはご理解頂きたいなと思います。

あとやはり、ゾーン分けの部分につきましては、仰るとおり空き家対策ですとか、空き店舗対策シャッター街に対すると、こちらでもですね町の住環境に関する計画ですとか、また、来年度以降、都市計画マスタープランが更新される予定にもなっておりますので、より個別の計画の中で、具体策っていうのも打ち出して行かなければならないという風に我々も感じておりますので、より所管と、特に都市計画部分については連携してやっていきたいなと思います。こういった答えになってしまいますが、ありがとうございました。

Q 委員

聞きたいところが持続可能なまちづくりのところに関係してくると思うのですが、本日新聞にもあったとおり、核のゴミの受け入れについて、近隣で議論が交わされていますが、このことについて、近隣の岩内町としてどのように関わっていくのか、一概に反対とかではなく、実際それを見越した持続可能なまちづくりというのは、どういう風に向き合っていくべきなのかっていうのを、考えた上でしっかりと施策を作っていかなければ、ずれた展開になっていくと思うので、そこに関してどういったお考えがあるのかお伺いが出来ればと思っております。

A 事務局

委員どうもありがとうございます。確かに今、岩内町の近隣のそういった問題提起されていると思います。岩内町にしましても、当然泊発電所が動いている部分、目の前に在るわけですから、当然我々も何らかの形で考えていかなければならないのかなと考えております。

そのまず、何を考えるのかということ、やはり泊発電所に関しては、やはりそういった部分で使用済み燃料が出てくると、これは逃れられない事実でございます。そうした事からですね、我々行政としてはですね、まず、神恵内村さん、寿都町さん、今議論される、色々調査されていきますけども、果たしてそれって町として北海道として、日本として最終的にちゃんと考えていこうよ、という事は我々行政としてもそうですけども、町民の皆様方にも、きちんとご説明、そして分かって頂く。当然分からない部分も出てきますので、そこは当然専門家のご意見ですとか、そういった方々のお話を聞いた中で、町民の皆様方には説明をしていかなければならないのかなという風には考えております。

ただ、それが今なのか、また、近い将来なのかっていう期日というのでしょうか、そういうのは中々見通せませんけども、まず、神恵内村さんと寿都町さんが静かな環境な中でですね、議論を進めていただければ、岩宇3町村についてもですね、そういった説明会だとかそういった部分は考えていかなければならないのかなという風に考えております。

Q 委員

先ほどの委員の話に関連するんですけども、やっぱり少子高齢化って流れは全国的なものなので、今更もうそれをどうにかしようという方向性ではなくて、やっぱりこの状態、逆ピラミッドの状態、みんなが豊かに健康に健康寿命を延ばしながら楽しく暮らしていくには、どうしたら良いかという方に舵取りを変えた方が良いんじゃないかなと思うんですよね。

今、コロナで大騒ぎになっていて、うちお寺なんですけど、住職は毎日檀家さんのところに回っていて、やっぱり一人暮らしのお年寄り毎日誰にも会えなくて寂しい、こんな事じゃ生きていてもつまらないと言うお声が多いんですよ。なんか色んな集まりも規制されてますけど、岩内町として、今この騒ぎが起きて一年経って、コロナでお亡くなりになる方と、他のリスクでお亡くなりになる方とのデータとかをみて比べてみて、それをちょっと比較してみて、皆さんの生活を犠牲にしてまでこれはどうなのかということ、ちょっと考え直した方が良い時期なんじゃないかなと思うんですよね。

やっぱり私たちはいつか死ぬし、その時期も選べないので、岩内町としてはこうなのでこうしたらどうですかとか、提案があってもいいかなと思うんですけども。

A 事務局

非常に貴重なご意見ありがとうございます。我々といたしましては、一応コロナの対策につきましては、専門の部署がございまして、現在、まずはワクチンに向けて準備をしているところです。

現段階として、なかなか国、北海道も示しているとおりに、なかなか減少傾向に至らない中で、さらにその次の展開を考えてこうするべき、ああするべきというのはなかなか町として

も打ち出しが難しいんですが、まずはそのやはり高齢の方の重篤化する可能性が高いということで、そういった方にしっかりワクチンが行き渡る状況がでてくればですね、これまで通りとはいかないかもしれないんですけど、また、行事ですとかイベント、こういったものの在り方ですとか、やり方、これもですね変わっていくのかなと思っております。

Q 委員

ワクチンについても、世界ではもう摂取が進んでいまして、副作用ですとか血栓による重篤化や死亡も報告されているんですね。そういうのも踏まえて是々非々というか、テレビなどでは打つべき打つべきって話になってるんですけど、果たして本当に必要なのかどうかと言うことを両論でちょっと情報を集めて、それで、その打つ方にちゃんと理解してもらった上で、こういう事がありますけれども大丈夫ですかっていう、どういうワクチンかっていう事をちゃんと情報開示して説明してからじゃないと、やっぱり人類にとって初めて使われる遺伝子ワクチンなので、やっぱりこれはちょっと情報集めて開示して説明した上で打ってもらうという風にした方がいいと思うんですけども。

今の日本の致死率からみて、これは本当に必要なのかと仰っている学者さんもありますし、60%以上が接種済みのイスラエルは日本よりも感染者が多いというデータを出している方もいらっしゃると思いますので、そこはちゃんと町として調べて頂きたいと思います。

A 事務局

貴重なご意見ありがとうございます。やはり、専門部署をしっかりと設置しておりますので、そちらにも委員のご意見を伝えながらですね、そのワクチン接種についてもですね、しっかりと情報を提供したうえで、打つ方の判断となっていくと思いますので、その辺もですね、担当部署にしっかりと伝えていきたいと思います。ありがとうございます。

【その他】

各委員より一言ずつ。

委員

私は山の上でホテルをやらせて頂いておりますが、懸念というかですね、ここから10年後、20年後になった時に、観光のお客さんが実際に来て楽しめるのかどうか。この基本計画の49ページを見ながらですね、ここの地図で観光物流拠点ゾーンの観光が削除されてしまうのとかですね、リゾート拠点ゾーンに位置をしながら、あんまり観光に興味が無いのかなとかですね。色々こう、10年後、20年後どうやって生きていこうかなとかですね、思いながら。

尚且つ、ニセコ等々見ていくと、いわゆる人員ですね。働く人が全部抜かれちゃって、時給単価高いところに抜かれちゃうのをどうしようかなとかですね、まあ、色々考えてます。まあ、先ほどの私から質問させていただいた就労人口のですね6,200人というところで、まあ、これから先ほど逆ピラミッドで、どんどん就労人口が減っていくんだろうなと思うと、まあ、働く人もいない、観光する人もどうなるか分からないといった中で、色々議論ある中

で、まあちょっとクリエイティブな人間を育てなければいけない、とはいえ人口を増やさなければいけないという風に考えております。バイデン大統領じゃないですけど、移民とかですね、移住者をどんどん増やさなきゃいけないとか、そういう風には考えて思っております。まあ、我々事業者としても魅力的な事業をやっていかないと、人材確保にしても、お客様確保にしても、なかなか難しいなっていう風に考えております。そのあたりのご指導とですね、援助をしていただければなと思います。その中で、この中にもぜひ観光を入れて頂きたいなという風に思っております。以上です。

委員

この先の10年の計画ということですね、事前資料を頂いた後に、10年というのはどのくらいの時間のスパンなのかなと、自分の中でちょっと納得させようと思って10年前のことを思い出しました。

私は岩内に戻ってから、丸13年が経ち今年14年目を迎えます。10年前それから、10年前の事を考えると、割と10年先の未来ってイメージしやすいと考えております。今回の資料を見た中で、やっぱりその、先ほど割愛させて頂きましたけれども、基本の理念だとか、構想という部分をいかに具体的な政策に落とし込んで、しかもそれをしっかりと、責任をもって実行していくかということで、この先の10年というのは変わってくると思います。で、正直言って10年前と現在という風に考えた時にですね、その言葉は悪いですけども、あまり成長とか前進とかは感じておりません。

この先10年を話し合う会議にせっかく居合わせたので、少しでも、一歩でも、二歩でも、10年後に成果あったなっていう風に思える、まちづくりをして欲しいなと思います。

委員

この資料を見ますと、大変立派な資料だなと思います。それでですね、地域おこし協力隊というのが、岩内に何名かいらっしゃいますね、この間私のところに「桜を植える会」に参加しませんかという問題がありまして、みなさんとその問題をお話しする機会がなかなか無かったものですから。とっても良いお話だなと個人的には思います。

でも、その桜を植えるのには、私たちはもう年なものですから、10年後くらいの年齢にはちょっと無理だと思うんです。若い方、子ども達に参加してもらって、私たちはちょっとお手伝いくらいは出来るのではないかなと思ってます。そのような事で桜は観光の名所になると思うんです。あと、出産なんですけれども、移住者、岩内町が魅力的な町だということ載せていただいて、出産に関わる様に載せたいんですけれども、病院がないものですから、出産するのにもちょっと考えてみたいなと考えています。以上です。

委員

この総合振興計画の中には、やはりその、一つリターンというのが役割を担うんだなと、そう思った次第であります。

今日、初めての参加なんですけども、今丁度出産という話もありましたけども、なかなかその、特にドクター、医療従事者ですね、その確保が非常に厳しい中なんですけども、私ども法

人の理念としてはですね、「地域医療を守る」という立場の法人なんで、その部分はですね、充分に対応していきたいと、ただ、先程言いましたように、人の問題に関しては、中々やっぱりその、投資してもですね、中々地方までに来て頂く事が非常に難しいということもありますし、特にドクターに関してはですね、非常に高額な報酬を払って来て頂くという状況がもう数年度続いております。

従いまして、ただ継続するとは言ってもですね、色んな方法があるという風に思ってますし、いわゆる出来るもの出来ないものの区別をきっちりする。それから、私の法人はですね、小樽、それから余市にも関連病院がありますので、そこも後志エリアということですね、一つ考えることもありかなと思っております。まあ、私は丁度法人の役員もしておりますので、そういう意味ではですね、この岩内、ずっと岩宇地区のご支援を受けながらやっておりますけれども、この計画を拝見しますとやはり、無くてはならない医療機関という認識もまた深まりますし、非常にまあ経営的には厳しいですけれども、その中の一つの計画をですね、体制を整えたいと、引き続き皆さんのご理解ご協力をお願いしたいと思っております。

委員

私の方でちょっと気になったのが、基本計画の部分の重要業績評価指標という部分の数値の出ていない部分もあると思うのですが、ある意味では目標値をどう設定するかっていうのは非常に、ここにあるだけの基準値目標値だけでいいのかどうか。

それは、ある意味では目標値を達成できるのかできないのか、というのは10年経った時の岩内町を見ていけばわかるような事になっちゃうんでしょうけれども、そこにはもっと数値的な根拠っていうんですか、裏付けて言うのかな、そういう物が必要になってくるのかなって思いながら、この辺もいつの段階で、どういう風に示されるのかなっていうところを気にしていたところです。以上です。

委員

私の方からは特にありませんが、あと10年頑張れるのかなというのは本音です。よろしくをお願いします。

委員

まずは、岩内町総合振興計画の案がとても立派なもので、ここからまた、それぞれの分野で細かい部分が落とし込まれて、評価をして、その評価に合わない部分は修正して、そういう事が繰り返され、10年いくんだろうなと思えました。

あと、私は出席させて頂いてる分野に関しましては、やはり介護を受ける側のサービスの充実だけを図るのではなく、やはり予防の観点から、高齢になってからでは遅く、若い世代からの健康意識の向上であったり、あとは年を重ねても自立に向けた役割の継続が必要であると考えております。

あと、今後の事を考えるとやはり、行政だけに頼るのはもう難しいじゃないかと思っておりますので、やはり、自助であったり、共助であったり、その辺の機能の強化を図り、後は人材の育成は不可欠ではないかなと思っておりますので、やはり、自助共助の強化を図ると、人

材の育成には力を入れて頂きたいなと思います。以上です。

委員

岩内町に来てまだ5日目なので、産業も町の様子も全く分からない中で、意見するのは大変おこがましいと思ってるので、話を聞きながら、この現場で出来ること、何かなど考えていました。令和4年度から始まる新学習指導要領でも、今年度の教育目標でも、「社会に開かれた学校運営」、「社会に開かれた教育課程」というのは大きな目標の一つとなっておりますし、前校長も、岩内町と良い連携しながら進めてきたという流れを受けてきたと思っています。

高校生が町内で何が出来るのか、何をしてきたか、という部分を充分踏まえた上で、今話し合われた事が、継続されて、最終的にうちにいる子ども達が、岩内町に元気をもたらす様に、岩内町に戻ってくるとか、そのまま居るのかまだ把握していないんですけども、そういうような活動、それは高校だけじゃないんだと、小中高だったり、教育の現場で言ったら色んな取組があるし、自分の経験だけでこうして欲しいとかではなくて、経験の話なんですけれども、私一番最初の赴任がたまたま上士幌町だったんですよ。当時の上士幌でもこういう話になっていて、例えばある先生は、町を元気にしたいんだって言って、小中高全ての学校回って音楽指導して、まちのふれあいコンサートするんだって言って、町民みんな集めて音楽活動してみたり、気球部作って気球を飛ばして、上士幌町の子ども達をみんな空飛ばすんだって頑張ってる先生もいたりとか、やっぱり教育現場でも出来る事って、微力かもしれませんが、それが、一つの大きな元気になっていけばいいなという想いで話を聞いていました。以上です。

委員

一点だけ、この計画の目標を達成するためには、各課で作る個別計画ですか、この実施計画が大変重要な位置にあるかと思えますけれども、これについて言うと各課で作るんで、事務局がもっと口を出していかないとこの計画策定に向けた計画にならないんだと思うんです。そういう部分も含んで、事務局の人がこれから各課で作る計画について充分注視して口を出す。それぐらいしていかないと目標達成にはならないと思いますので、一つ頑張って頂ければと思います。

委員

今の委員と重複するところがあるんですけども、計画自体は大変良いと思います。具体的に今度戦略をですね、決める上でできるだけ住民の皆さんも参加して、住民目線で組み立て出来るような機会をですね、まず多く作って頂ければなと思います。

話は変わりますが、最近ですとコロナの関係で我々金融機関の方も色々お手伝いさせて頂いて、それこそ無利息でのご融資をご利用頂いております。これがですね、最長で10年で返済という形になりますので、それこそワクチンを打ってね、感染者がゼロになったとしても、10年たってその分の借入れも無くなって初めて元に戻るという形になりますので、その点も踏まえてよりですね、住民の中で色々話しをして、今後も決めてい

て頂きたいなと思います。よろしく申し上げます。

委員

先ほども、PDCA サイクルの事をちょっと話したんですけれども、多分、基本計画に基づいて、役場の各課それぞれがまた、細かい実施計画を作っていくと思うんですが、それぞれに対してもいわゆる KPI 値、目標値をそれぞれ設定することが必要だと思うんです。ただ、その評価については、同じ課で評価するのは評価にならないんじゃないか。だから、評価については、各部、各課を横断してそれぞれが、色んな人が携わって評価していかないと結果として、自分たちがやりやすい目標値にしてしまって、成果だけってなってしまうから、特に、実は、63 ページの観光地域づくりの推進でいくと、KPI が観光入り込み客数は良いんですが宿泊者になっている、これじゃ宿泊者だけかと、それじゃ観光入り込みにならないだろうと、単純にちょっと、そういう KPI 値が結構これ見るとあるのかなと。

もっともっと KPI 値を上といいますか、数字の上ではないですけど、もう少し上のレベルで KPI 値を作らないと書式だけ作っちゃえばいいのかなと、ならないとは思いますが、5 年間やって、そのすぐチェックして、アクションに向けてくにはその辺が低いと、どうしても低い結果にしかならないんじゃないかなと、そんな感じがしました。特に行政さんですから、通常縦割りの行政が中心になると思うんですが、やはり今横割りといいますか、一つの目的についても一つじゃなくて、かなり色んな分野、一緒になって動かないと出来ないような形になってきているんじゃないかと思うんですけど、例えば観光だって観光だけじゃなくて、それこそ地域の生活にだって関わってくる。他の部分も関わってくるものが観光だと思ってますんで、そういう部分が縦割りではなくて是非、横割りと言いますか、課をデザインして、そういう部署みたいなのがあればなという感じです。以上です。

委員

高校を出てから 18 年間相当色んな所を住まわせてもらいまして、10 年前に帰って来たんですけれども、帰ってきた当時はやっぱりこう色々お店が無くて、病院もなくて不便だなと思ってたんですけれども、最近はやっぱりもう、これからは田舎の時代なんじゃないかなという風に思いました。

なぜかという、胆振東部地震で皆大騒ぎになった時に、札幌なんかは壊滅状態で、トイレも使えない、スーパーに物はないという状態だったんですけど、岩内も例に漏れず、大手のスーパーでは物が無く皆さん行列並んだりして、あの地元の個人商店さんには、結構物が入っていたりとか、そういう状況もあります。やっぱり、地元の産業とか、商店とかを守っていく事も大事なんじゃないかなと気が付きました。

新しい事ももちろん大事なんですけど、そういった産業とか地域の商店さんとかを応援するような取組みとかありましたら、一緒に入りたいなと思っております。ありがとうございます。

委員

スポーツの分野で、出席させて頂いているんですけども、コロナみたいでスポーツの方も自粛、中止とかで、事業が出来ない状況が続いております。また、オリンピックの方も開催されるかどうかしっかり定まっていない状況です。ただ、10年後の総合振興計画の部分では、普通に生活出来るっていうのがまず大前提にあるのかなっていう感じはあります。

また、普通に生活するため岩内町として、町として、先ほど1次産業の人口がこんなに減少してて、町はどうなっていくんだろうっていう風な不安も抱えています。やはり、海の町として、栄えてきた岩内町がまた、ある程度栄えなくても少しは盛り上げて、岩内町はやはり、海が良い、魚がおいしいんだという風な話が聞けるような状況になって欲しいなという風につくづく思っています。今後10年後の行政が発展する事をですね、願っております。

委員

7年ぶりに岩内に戻って参りました。当時の教育現場の環境を考えると、ガラッとかわってるので、今非常に戸惑っているところです。岩内町では7年経っていると義務教育学校設立に向けた基本計画が策定されて、非常に校種間連携が盛んに行われているという様なことを伺っております。また、このコロナ禍の中でギガスクール構想が生まれた年にもなっておりますので、生徒一人一人に端末が整備されつつあります。今度はそれに向けて実際にこう活用できるような教育を、スピード感をもって進めなければならないと強く思っているところでもあります。やはり、この10年先を見通した、岩内町の振興計画を踏まえた時に、教育の果たす役割は非常に大きいんだろうなという風には自覚をしております。

7年前、私教頭でいた時ではありますけども、総合的な学習の時間で岩内の海洋深層水を活用して、子ども達が自分達の発想で、新たな商品開発をするというような学習をしておりましたが、非常に中身の濃い学習であったなと思い出したところでもあります。このようにですね、岩内にある魅力、そういったものを、地元の魅力っていう事をまずは地元の子供達にしっかりと学んでもらう、学ばせていくことが、大事なポイントなのかなと、この子供たちがいずれ大きく成長した時に、やはりそうしたものを活用しに戻ってくる、起業するでありますとか、そのような発想に至ってくると、一つ大きな岩内町としての産業振興にもなっていくのかなと考えたりもしておりました。まだまだ、分からないところが多いので、KPIとかの発言は出来ないんですけども、思ったままを話させて頂きました。

委員

今日の段階で計画の素案まで作成されているんですけども、まずは担当されている事務局の方々、今まで色々な調査ものとかワークショップ等と取りまとめ、資料の作成等と大変なご苦労があったという風に思います。これから、策定に向けてですねラストスパートということになるかと思えますけども最後まで頑張ってもらえなという風に思います。

それと、計画進めていくに当たってですね、先ほど何人かの方からも出ておりますけども、やはり目標値の設定といいますか、KPIの部分がとても重要になってくるだろうと思ってます。その項目立てですとか、各目標値のところ目標を設定すればいいのかというところは大変難しいところかなと思うんですけども、各部との擦り合わせの上精査して頂いて、示

して頂ければなという風に思っております。

それと、私は仕事柄福祉の部分に気にかかるところなんですけれど、やはり少子高齢化という部分で色んな生活課題ですとか、そういうものが出てきております。やっぱり今後については、行政であるとか公的サービスだけでこういった課題解決するのは難しいという風に思っていて、やっぱり一般の町民の方々からの、協力と言いますか、支え合いというのが大事になってくるだろうと思っております。

基本計画の中でもですね、町民ですとか地域が出来ることという事で文言が記載されております。こういった部分をですね、全面というかボンッと打ち出してくれると、それに関わる福祉部門だけでは無いと思います、色んなところもやっぱり町民の協力がというのが非常に重要となってくるとおもいますので、ここの部分を示して頂く事で、それに関わる仕事をしているもの同士でもですね町民の方々に対して、お願いもしやすくなると、協力の要請もしやすくなると、ということもありますので、こういった部分全面に押し出していたければなという風に思います。以上で終わります。

委 員

私は口下手なもんですから、何をお話していいかあまり良く分かりませんが、漁業に関係するところ、先ほどから委員の方々から、第一次産業の衰退と言うことでいろいろお話されています。資料の14ページに今、産業別就業人口というものが書かれておりますが、ちなみにこの文書の中で、基幹産業である漁業について昭和45年には1,692人、平成27年には82人という格好で記載されております。

昭和45年というと、私が漁業協同組合に就職した年になります。その際の正組合員、事務組合員というのは600人を超えていました、今現在正組合員のみで52名です。職員数も45年の時には100名を超えていました。今現在10名の職員でやっております。これで、いかに漁業が衰退してきているかというのが分かると思います。

私も勤めて50年超えますけど、危機感責められているというか、何とかしなきゃないと考えているけど、なかなかその好転させるような物がないと言う中で、昨年度から牡蠣の養殖事業というのを試験的に今、実施しております。先日は岩内町さんの協力を得まして、青森県の深浦町と今別町とサーモンの視察に行ってきました。これが果たして漁業としてやっていけるかどうかというところが、これから町の方と話を詰めながら進めていきたいなという風に考えております。何とか、漁業の町、漁業の町、色んなところから言われてきますので、その度に胸が詰まる思いでいるのも現実です。何とか少しでも盛り上げていこうと、そのような気持ちで頑張っていきますので、どうか皆様方のご協力、ご支援をよろしくお願いいたしたいと思っております。以上です。

委 員

今、「いさりび」という誠寿司さんの隣でですね、カフェバーの改装をしております、移住して元々札幌出身なんですけど、今年で5年目を迎えます。岩内ってところが、元々聞いたこと無い様な、申し訳ないですけども、札幌に住んでいる時はそのような所だったんですけども、いざ、岩内に来てみるとどっぴりはまってしまって、岩内が色んな世界を

見た中でも、一番魅力的な町だと私的にはそういった場所になりました。色々と KPI だとか、こういった計画を作ることで凄く大事なことだと思いますし、今後の進み方っていうのも示される大事なものになると思うんですけども、5年とか、10年とかで、目標設定したものが、すぐ出るとは私は思っていなくて、そもそもこれを地域経済を回すためだけのものなのか、それとも本質的にここに住む人のためのものなのかというところでも、かなり大きく変わってくる点なのかなって思っていて、その中でも、色んな世界を旅したときに思ったのが、子どもが笑って居るところっていうのが、ほんとに元気なところなんですよ、可能性も感じる場所っていうのが、35カ国ぐらい旅したあとの感想でした。

なので、岩内って凄く子どもが元気な良いところだと思うので、投資するのであれば、子どもにいくらでも投資してあげて、そして、10年、20年ですぐには出ないかもしれないですけど、長期的な目線で、50年とか100年とかそういった目線でこの町づくりが出来たら良いなという風に思っております。私も色々頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

会 長

私もちょっと一委員として、一言言いたいと思います。私、28年前に岩内に来まして、最初来た時人口1万8,000人程いました。それから今現在、その当時は共和町は7,000人ぐらいだったと記憶してるんですけども、今考えると一つの町がなくなったぐらいの勢いで、人口の衰退が起きているというのが現実でございます。

私が最初岩内に来た時にですね、丁度目黒さんの場所のところでフジカメラという商売をやっていたんですけども、駅前通り、まず電線が全地中化されていました。すごい町だなと。スキー場もリフトですずっと上の方まで行けて、上から見た景色、私は一時期盤渓スキー場というところで働いていたことがあるんですけども、恐らく日本中のスキー場の中でも一番景色良いんじゃないかなと、という風に記憶していますし、そういう風に言われていた事を思い出しました。なので、岩内は食べ物にしても海の幸、山の幸すごく良いところだと思いますし、まだまだ観光資源生かす事でチャンスはあるんじゃないかなっていう風に思います。

じゃあそのために何をしなきゃいけないか、今、私が来た時というのは、ほとんどその当時のメイン産業というのは多分土木建設業だったと記憶しております。その次には、漁業もちろん、イカの水揚げなんかも、その当時凄くあったと記憶しております。本当に函館に次ぐぐらいの勢いで、お祭りの手伝いなんかすると、イカ刺しが活きの良いのがボンと出てきて、おいしいの食べれるのかというぐらい記憶しております。

じゃあ今どうなんだという色んな自然環境の問題があって、獲れなくなってきたところなんですけども、まだまだ海洋深層水を生かした部分でも何か出来るんじゃないか、とか夢物語かもしれないけども、もっともっと皆さんのご意見とかを出すと本当に良い物が出来るんじゃないかなと勝手に考えております。

何を言いたいかというと、本当にこの町の持っている、先輩方のもの凄いパワーですとか、そういう自然環境を生かしながら本当にこれ以上の人口減を止めるんだぐらいの勢いでまちづくりをしていって、本当に未来を少しでも良い風にしていきたいなと考えております。

よろしくお願いいたします。

事務局

皆さん長時間にわたりお一人ずつ、本当に貴重なご意見頂きましてありがとうございます。最後にですね、我々の方から、今後のスケジュールについて、お話ししたいと思います。本日も協議いただきました計画案、こちらをまずベースにしまして、多数ご意見頂きました KPI の設定、また、その設定数値の精査、これは我々事務局がしっかりと責任を持ってですね、各所管と調整しながら、先ほどご意見頂きました甘い設定にならないようにですね、将来を見据えてですね、この辺精査して設定していきたいと思っております。

また、文章中もですね、数字の間違いですとか細かな文言の修正これらも出てくると思います。また、計画全体においてですね、体裁、この辺もしっかり整えた上でですね、中身をより精査していきたいと思えます。

KPI の設定とかが済みましたら、また委員の皆様にもお示ししたいと思いますし、併せてですね、4月の中旬から下旬、さらにそこから1ヶ月30日間を予定しているんですが、パブリックコメント、こちらも平行して実施させて頂きたいと思えます。パブコメで沢山ご意見出てくると思うんですよね、町民の皆様からも。こちらの意見も最終的には、計画に反映させた上で、最終案をですね、5月の末から6月の中旬、こちらに再度皆様に最終形をお示ししていきたいと考えております。再度、策定委員、策定審議会の皆様にはお集まり頂く事になるんですが、その場で、5月末、6月上旬で答申を賜りたいと考えております。以上が事務局からのスケジュール的な報告となります。よろしくお願いいたします。